

令和4年度 第1回 学校サポーター一会議

開催日 令和4年6月29日（水）10:00～12:00

場所 福岡市立南福岡特別支援学校

令和4年度 福岡市立南福岡特別支援学校サポーター一委員

堺 裕 様（帝京大学 福岡医療技術学部 教授）
本荘 哲 様（国立病院機構 福岡病院 臨床研究部長）
加治木 ちさ子 様（福岡市立あゆみ学園 園長）
石橋 昌和 様（自立の里大地 支援課長）
岡本 恵利美 様（福祉作業所 otto 代表）
上野 政子 様（月隈公民館 館長）
阿比留 眞弓 様（隅田町町内会 会長）
因幡 那水 様（PTA会長）



会次第

- 1) 学校長あいさつ
- 2) 授業参観
- 3) 学校説明
- 4) 意見交換

学校長あいさつでは、「外部の方々の率直で厳しいご意見も真摯に受け止めながら、よりよい学校にしていきたい。」という旨の話がありました。

その後、サポーターの皆様にご自己紹介をいただきました。各々コロナ禍の中、少しずつできることを見つけながら前向きに取り組んであることをお話いただきました。

授業参観については、各学部・学年の多岐にわたる教科や内容の授業を参観していただきながら、校内の様子も見ていただきました。その様子をもとに、意見交換の場で、委員の方々より貴重な意見をいただきました。（後述参照）

学校説明では、学校長より「先生たちが、子どもたちのためにしたいことが叶う職場にしたい」「今まで受け継がれてきた肢体不自由児教育を、若い先生たちにしっかりと受け継いでいきたい」という思いが語られた後、学校経営案の中から重点的に取り組んでいきたい内容について説明がありました。

授業参観後の意見交換会では、次のような感想や意見がサポーター委員より出されました。

- 「第3号研修」について、2年ぶりに再開し、学校で推進して取り組んでいることや、ペーパークラフトの注目の試行が今年度より学校で始まっていることがわかった。
- 「障がい者差別解消法」「優生保護法」等の法律や「合理的配慮」について、しっかり学習していく必要がある。
- 虹のトンネルを歌とともにくぐる音楽の授業や、廊下の天井から子どもたちが作った無数の藤の花が下がっている学校環境に、子どもたちが楽しく生き生きと活動できる工夫が多いと感じた。ほっとした。
- 児童生徒の、姿勢や坐位の取り方、頭の位置や手足の位置等、先生たちの個別の配慮が見られる点や、反対に気になる点も見られた。
- 卒業後、社会に出てからのこともしっかり考えて、教育していく必要がある。
- 障がいのある子どもたちにとって、自分の意思を表出することはとても大事なことです。感覚学習を通して、自分の感じたことを表現することは、自分の意思表出につながる大切な学習であると感じた。

他にも、児童生徒の支援に関しても、学校としてありがたいご意見をいただいています。充実した意見交換ができました。ありがとうございました。

文責：教頭 近藤 達也

